



森へいこう



ミス・ヒッコリーと森のなかまたち

キャロライン・シャーウィン・ベイリー 作 坪井 郁美 訳 福音館書店 933-ベ

ミス・ヒッコリーは、^{あたま}頭はヒッコリーの^み実、^{どうたい}胴体はリンゴの^き木の^{こえだ}木の小枝でできています。トウモロコシの^{しん}芯でできた^{いえ}家は^{だい}大すきでしたが、ひっこしすることになりました。カラスにおしえてもらった^{あた}新しい^{いえ}家は、リンゴの^き木にすえられた、^{おお}大きな^{そこ}底の^{ふか}深い^{とり}鳥の^す巣でした。カラスはミス・ヒッコリーに、^{とも}友だちをつくったり、^{たんけん}探検したりといくらでもやることは^み見つかる^とといひます。

菜の子ちゃんとマジムの森

富安 陽子 作 福音館書店 913-ト

ユージと^{てんこうせい}転校生の^な菜の子^こちゃんは、^{がっこう}学校の^{かえ}帰り道で^{みち}ふしぎな^も文字が^じ書いてある^か葉っぱ^はを見つ^みけます。菜の子^なちゃんは、^{きょうしつ}教室の^{まど}窓の外に^{そと}いた^{おきなわ}沖繩の^{やんばる}山原の^{ようかい}妖怪である^おマジム^おが^お落として^おいった^おと言ひます。菜の子^なちゃんに^こたの^なまれた^こユージは、^{やんばる}山原の^{もり}森に^む向かって^はだれが^は葉っぱを^お落としたか^おで^{こえ}っかい^お声で^おたず^おね^おました。すると^{もり}森^きじゅう^ぎの^き木々^ぎが^おこ^おず^おえ^おを^おゆ^おらし、^おしゃ^おべ^おりは^おじ^おめ^おました。

もりのかくれんぼう

末吉 暁子 作 林 明子 絵 偕成社 E-ハ

こうえんであそんだ^{かえり}みち、^{けい}こと^おに^いちゃん^はうち^まできょう^{そう}しました。けいこはあわてて^おに^いちゃん^をおい^かけて、^いけが^きの^した^をと^おり^ぬけよう^としたら、^スカ^ート^がこ^えだ^にひ^っか^かって^しま^います。や^っと^いけ^がき^のむ^{こう}が^わに^でた^{けい}こ^は、^みた^ことも^ない^おお^きな^もりの^いり^ぐち^にた^って^いました。

もりのへなそうる

わたなべ しげお さく 福音館書店 913-ワ

てつたくんは、おとうとの^{みつ}やくんと^{もり}へ^{たん}けん^にで^かけて、^おお^きな^きの^した^にお^おき^なお^おき^なたま^ごを^みつ^けます。ふ^たり^はだ^れに^もみ^つか^らない^よう^に、^くさ^やは^っぱ^をた^くさ^んと^って^きて、^たま^ごを^すっ^かり^かく^しました。てつたくんは、この^{たま}ご^はも^しか^したら^きょう^りゅう^のたま^ごか^もし^れない^ぞと^おも^って、^むね^がど^きど^きし^ました。

春をさがして

大竹 英洋 文・写真 福音館書店 295-0

北アメリカ大陸北部に広がる森と湖の世界「ノースウッズ」は5月になり、ようやく湖の氷がとけました。ぼくとウェインは、森の奥へカヌーの旅にでかけることにしました。ウェインは森に育つヌマヒノキで作られたカヌーを使っています。そして、森に暮らす鳥や動物たちとの出会いを楽しみにしています。木のカヌーを使うのは、彼らを驚かさないう工夫でもあります。

きつね森の山男

馬場 のぼる 著 こぐま社 E-バ

あおい森に気に入ったねぐらをみつけた山男は、森のいりぐちにはいろいろとしました。するとへいたいごとびだしてきて、きつね森にはいるなといいます。山男がキツネが大すきだというと、へいたいどもはきえて、キツネになりました。キツネを毛がわにしようとするとのさまとの大せんそうがはじまるので、山男はキツネ軍にはいることになります。キツネたちと山男は、とのさま軍がせめよせるのをふせぐため、森にようさいをきずきました。

また もりへ

マリー・ホール・エッツ ぶん・え まさき るりこ やく 福音館書店 E-エ

わいわいがやがやというこえがあまりさわがしいので、ぼくはもりへみにいきました。するとどうぶつたちがぼくをまわって、みんなでじぶんのとくいなことをやって、うでくらべをしようといいました。ぼくはよびだしがかりになって、さいしょにきりんをよびました。きりんがくびをながくながくのぼすと、あたまはこのはにかくれて見えなくなってしまう。